



「母子保健の一翼を担う私たちは」

藤沢市健康医療部 健康づくり課

課長 神谷忠良

私が所属する「健康づくり課」は、母子保健だけでなく成人の健診・検診や健康増進事業そして予防接種など、「健康」にまつわる業務を幅広く担当しています。着任当初にまず感じたのは、在籍する職員の多彩さ。保健師、助産師、心理士、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士…。一般事務職は当課では脇役です。

市の事務職員は性質の異なる様々な分野を異動毎に渡り歩き、専門性を深めることは難しいけれど、年を重ねて何でも屋さんになっていく、私自身そのように感じておりました。一方、各専門職員は分野毎に特化してスマートに活躍、そんな印象を持っていましたが…。

着任後に母子保健業務の端々からその多面性に触れ、保健師はじめ各領域の職の奥深さを知り、私の先入観の誤りを痛感しました。目指すところは母子の健康、しかしただ健康と言っても、その実現のためにはあらゆる方面から周辺を整えていかねばなりません。子の成育への気遣いは勿論のこと、子に向き合う母の不安、生活・経済面、各家庭の背景や歴史にも視線を送り。それぞれの家庭の育ちを支えるために何ができるのか、求められる知見は果てしなく幅広い。それこそ「何でも屋さん」でなくては成し得ないのが母子保健との認識に至り、日々奮闘する「真の何でも屋さん」達の活躍を頼もしく感じています。

広大深淵な母子保健の世界と対峙するためには、資格だけでは自信を持って臨めないでしょう、個々の努力にも限界があります。人材育成の視点は欠かせませんが、各種研修も有用ですが、意見交換や課題の共有、スタッフ間の対話からの気づきや学びの積み重ねが、各々の視野を拓げ、引き出しを増やしてくれる成長の糧になると私は考えています。そもそも多忙、じっくりと対話することもままならない日常ではありますが、各々の体験を持ち寄って毎日賑やかに語り合っ欲しい。私はそんな職場を受け止めて支える脇役として、共に成長できたらと思っています。

